

化学工学会第 43 回秋季大会 名古屋工業大学 2011 年 9 月 14 日～16 日

シンポジウム <材料・界面討論会「材料創成と界面現象」>

オーガナイザー 山村方人（九州工大）・吉田昌弘（鹿児島大）・清田佳美（東洋大）

【趣旨】

材料プロセスと界面制御工学の重要性は益々強く認識されるようになっており、継続審査を経た本部会は 2 期目を迎える。分科会をコアに議論されてきた個々の分野の発表に加え、各分野の進展と今後の展望を研究者個人が掘り下げた発表を、広い視点で議論の俎上に上げる総合シンポジウムを提供するのが、本部会主催シンポジウムの役割となろう。そこで本シンポでは活発な討論を期待すべく「発表 12 分+討論 8 分」の時間配分とし、「討論できる方」にご登壇を願う。また、本シンポは「ポスターセッション」と一体に構成されるものであり、プログラム編成上、ポスター発表への変更もあり得ることをどうかご了承願いたい。

【シンポジウム開催会場、開催日時、発表件数など】

大会 1 日目

B 会場 9 月 14 日（水）9：00～17：00 依頼講演 3 件、一般講演 15 件

大会 2 日目

B 会場 9 月 15 日（木）9：00～12：00 一般講演 9 件

大会 3 日目

B 会場 9 月 16 日（金）9：00～17：00 一般講演 21 件

（うち講演中止 1 件含む）

【シンポジウム報告内容】

今回のシンポジウムでは、塗布技術分科会より山村方人先生、高分子ゲルテクノロジー分科会より清田佳美先生、機能性微粒子分科会より吉田昌弘先生がオーガナイザーとなった。シンポジウム開催の趣旨に乗っ取り、一般講演の募集を募り、最終的に一般講演を 45 件（うち 1 件は講演中止）とし、これを 3 日間開催されるシンポジウムにプログラム編成を行いました。山村先生を中心にプログラム編成や座長依頼を行い、オーガナイザー間のメールのやりとりで最終プログラムを作成しました。また、今年度の秋季大会における依頼講演を担当する分科会は、機能性微粒子分科会、晶析分科会、高分子ゲルテクノロジー分科会あり、各分科会代表の先生からご講演いただきます講師の先生をご推薦いただきました。依頼講演は、大会初日の以下のスケジュールで実施され、100 余名に及ぶ来場

者がありました。

10:00-10:40 「微粒子と動物細胞との相互作用:付着、取り込み、毒性」

(京大院工) 新戸 浩幸 氏

10:40-11:20 「過飽和溶液の準安定性に関する一つの考え方」(岩手大) 久保田 徳昭 氏

11:20-12:00 「フォトクロミックポリマーからなる光駆動ゲルアクチュエータ」

(産総研) 須丸 公雄 氏

各分科会よりご推薦いただいた講演者の先生には、関連する非常に興味深い話題や成果をご講演いただきました。

一般講演では、「界面での物理化学的現象」や「微粒子調製ならびに構造制御」に関しての話題が中心であり、十分な議論や討論を行うために、プレゼン時間12分、質疑応答・討論時間8分(うち1分は交代時間を含む)で実施をしました。討論をするための時間がとれていることから、かなり突っ込んだ議論が展開される場合もあり、講演者、質問をされた方、来場者も得られる情報が多かったのではと思われます。講演会場は3日間を通じて80~100名に近い来場者があり、一般講演は盛況であったものと思われます。

シンポジウム <材料・界面討論会ポスターセッション「材料創成と界面現象」>

オーガナイザー 山村方人(九州工大)・吉田昌弘(鹿児島大)・清田佳美(東洋大)

【趣旨】例年通り各分科会での主幹テーマ、関連テーマ、およびそれらを繋ぐ分野横断型テーマから萌芽的な研究テーマまで幅広い研究を対象とする。セッション中に学生発表者を対象にポスター賞の選考を行う。本シンポジウムは、形式上、別個のシンポとなっているものの、部会討論会シンポと一体で運営する。

【シンポジウム開催会場、開催日時、発表件数など】

大会2日目

D会場 9月15日(木) 13:00-15:00 ポスター発表37件

【シンポジウム報告内容】

塗布技術分科会より山村方人先生、高分子ゲルテクノロジー分科会より清田佳美先生、機能性微粒子分科会より吉田昌弘先生がオーガナイザーとなって、シンポジウム<材料・界面討論会「材料創成と界面現象」>と一体で行う趣旨でポスターセッションを企画・開催しました。当日、発表件数37件、参加者100名以上の大盛況でした。本編の討論会と同様に、“材料・界面”をキーワードとする幅広い研究が報告され、有意義であった。セッション中に部会幹事を含む審査員27名によりポスター賞の審査を行いました。審査方法は、従来のやり方を考慮してオーガナイザー間で協議するとともに、部会幹事会の了承を

得て決定した。各審査員にはポスター賞候補者を最大で5件選んで頂き（記名式）、合計点の高いポスター順に受賞者を決める方式を採った。例年、審査結果はバラつかないとの情報を得ていたが、今回も審査結果はそれほどバラつかず、審査する側としての苦労はなかった。当初、部会長の承認を得て受賞者数4名と決めて審査に臨んだが、接戦があったため5名を選出した（接戦による1名程度の受賞者数の増加は考慮のうちで、部会長ならびに部会の了解を得た）。ポスターセッション終了後、討論会を行ったB会場を利用して授賞式を行った。授賞式では、賞状と記念品が部会長から贈呈された。当初、4名の受賞を予定し記念品を準備していたため、5人目の受賞者の記念品は後日お送りすることとした。なお、ポスター賞の趣旨を鑑み、同一の研究室からの受賞は一件までとした。賞状及び記念品は部会事務局にて用意された。今回の受賞者(学生・順不同、敬称略)は、茨城大工・藤咲寿美、徳島大院先端教育・片山恵、東大院工・岩室徳人、京大院工・花房竜也、奈良高専専攻科・山中幸一郎であった。添付の写真は、授賞式の様子（部会長とポスター賞受賞者）

今回、ポスター会場が狭かったことと震災の電力不足の影響による空調規制もあって、熱い討論に満ちた会場はサウナ状態であった。皆が汗だくになり心身ともに熱いポスターセッションであったが、会場に長時間居るのはしんどく、発表者、参加者の皆様は不快に感じたと思う。空調の問題はやむを得ない状況でしたが、会場確保の方は大会実行委員会との事前調整できると（可能なら）良いと思いました。目安としては、向かい合うポスターのパネル間の幅は、発表者が居る条件で最低2人が並んで通れる幅を確保するのがよいと思います。今回は質問者が立っていると分け入らない限り通り抜けできない幅でした。



写真：部会長とポスター受賞者（授賞式にて）

以上。